

早稲田大学大学院 創造理工学研究科

博 士 論 文 概 要

論 文 題 目

縮景の手法による居住空間の設計に関する実践的研究
— スケッチを介した自然風景の縮減とアナロジー —

Study on the dwelling design by the method of “SHUKUKEI” .
- Reduction and analogy of the landscape through sketching. -

申 請 者

| | |
|----------|-----------|
| 岸本 | 和彦 |
| Kazuhiko | KISHIMOTO |

建築学専攻 建築意匠論研究

2020 年 05 月

本論文は、日本庭園に見られる＜縮景＞と、世界に遍在する事物の縮減の志向性を端緒とし、風土的な振る舞いを喚起する居住空間に関する設計の方法論として＜縮景の手法＞を体系づけ、縮景のプロセスを展開することにより、実践への転回を可能とする新たな居住空間の試案を提示するとともに、手法の有効性と実現性を示すことを目的としている。

＜縮景-miniaturized modeling of landscape＞とは、主に中世以降の日本庭園において用いられた造園手法の一つであり、茫洋と広がる自然風景を、絵画や記憶を介して切り取り、縮小すると同時に抽象化することにより、庭という限りある領域に、その凝縮された風景と秩序ある理想世界を日本人は表現し得た。一方で本論文における＜縮景の手法＞とは、自然風景を抽象化の過程を経て縮減することにより、日本人の執拗なまでの縮減の志向性を居住空間の設計手法へと見立てることを目的としている。すなわち、自然風景が＜縮景＞として庭園に転写される過程を設計の方法に見立て、住居設計における＜縮景の手法＞を体系付けるのである。ここでいう自然風景とは、作者に現前する実存風景であるとは限らず、記憶として脳裏に焼き付いたイメージや、絵画として写し取られた風景のことである。それは日本における写実的な池泉鑑賞式庭園や、抽象表現としての枯山水庭園に見られる縮景が、中国の自然風景の縮減である山水画や、あるいは旅の記憶を転写したものであったことと同様である。そして、本論文における＜スケッチ＞と＜アナロジー＞とは、縮景における転写の過程を建築家による記憶の実在化に見立てたものであり、縮景の手法における＜ツール＞として位置づけられる。一方で抽象化のプロセスにおける＜理論＞として、＜遠近法＞と＜地形類型＞により自然風景の縮減を試みる。遠近法は、近代化の過程を経た現代において、世界的にその特徴的側面を見出すことが出来る＜線遠近法＞を普遍的な視点と捉え、前近代における日本の歴史的考察から見出される＜重畳遠近法＞と併走させることにより、風景の抽象化に伴う尺度の喪失と縮減を試みる。＜地形類型＞は、広域的な地形から日本人の営みと地形の関係を踏まえた狭域的な地形を5つ選び取り、それぞれ特徴的断面の抽象化に伴う尺度の喪失と縮減を試みる。すなわち、遠近法は空間の奥行きを創り出す＜壁構成＞として扱い、地形類型は場を生み出すための＜床構成＞として扱うことにより、自然風景の縮減と居住空間の再構成を試みるのである。そして導き出されるIV章の試案では、地形類型が自由に組み合わせられ且つ連続することにより、生活のための場が導き出され、遠近法が移動に伴って変化する空間と、連続した追体験としての自然風景のアナロジーを創り出すことを目的としている。無個性な量産住居が流布する現代日本における＜縮景の手法＞の意義とは、縮景のプロセスに包含される風土性を踏まえた居住空間を生み出し、住人である観賞者に自然風景のアナロジーを喚起させることにある。そして、計画者である建築家のスケッチに端を発した居住空間は、再度、観賞者のイメージにより自然風景へと帰還する円環のダイアグラムを構成する、第二の自然と言いうる空間である。すなわち、これまで取り組まれてこなかった、日本の風土的振る舞いである＜縮景＞を、風土的振る舞いを誘発する居住空間に見立てる方法論の提案である。尚、円環のダイアグラムは以下のa～fにより構成される。

- a, 自然風景（実存環境）
- b, 記憶（原風景）
- c, スケッチ（記憶の実在化）
- d, 抽象化（文化的背景の影響）
- e, 再構成（居住空間の生成）

f, アナロジーの感得（自然風景への帰還）

論文の構成は以下である。

序章において研究の目的と位置づけを述べた後、Ⅰ章からⅣ章まで大きく分けて4つの章で論じた。Ⅰ章とⅡ章では＜縮景の手法＞に関する理論を述べ、Ⅲ章では筆者を含む現代日本建築家の既往作品の考察を行い、Ⅳ章で＜縮景の手法＞における縮景プロセスを展開し、“トポスの風景”と称する新たな居住空間の試案を提示する。

各章の要旨は以下である。

Ⅰ章では、＜縮景の手法＞における円環のダイアグラムを定義するため、3つの節に分けて論じた。

1節では、縮減された風景の中に身を置くことの意味を通じて、＜縮景の手法＞を用いて生まれる居住空間に住まうことの意義を論じた。最初に、我々をとりまく現代の都市環境においても多くの自然風景のアナロジーを発見することが出来る点について、事例を挙げて示した。次いで公園における来園者の行動等を踏まえ、本能的な居場所の発見と、自然風景の緊密な関係について指摘した。そして居住空間において、縮減された自然風景が居住者に居場所の発見を促し、本能的で風土的な振る舞いを導き出す可能性を指摘した。さらに古代期より世界に遍在する事物の縮減志向例を挙げるとともに、日本の縮減志向を論じることにより、＜縮景＞の中に住まうことの意義と日本文化を関連付けた。

2節では、縮景プロセスにおける＜スケッチ＞と＜アナロジー＞をツールとして位置づける。まず、日本庭園における縮景の歴史において、実存風景の記憶あるいは絵画というメディアを介した転写の実例を挙げるることにより、日本における古代期から繰り返されてきた、自然風景を転写し再度実在化する過程を考察した。そしてその過程に介在するメディアを、建築家による記憶の実在化である＜スケッチ＞に見立て、円環のダイアグラムに位置づけた。そして、抽象化の過程を経て実在化した空間に、住まい手である観賞者がアナロジーとしての風景を感じ取るることにより、円環のダイアグラムが完結する流れを、華道における創作プロセスを例に挙げて述べた。

3節では、まず＜縮景＞における自然風景の縮減過程において、尺度の縮減という直喩的過程と、具象性を捨象し尺度を喪失させる抽象化過程が歴史的に存在している点に言及し、縮減過程における論理的視点として＜遠近法＞と＜地形類型＞を位置づけた。＜遠近法＞については、絵画の歴史を振り返ることにより見出せる複数の遠近法を考察し、＜線遠近法＞を現代における普遍的な遠近法として位置づけるとともに、＜重畳遠近法＞を日本文化に固有の遠近法として位置づけた。一方で地形類型については、広域的な大地形項目から日本における狭域的な地形を5つ抽出し抽象化することにより、閉鎖性（庇護性）と開放性（眺望性）という特質を踏まえた尺度と比率のマトリックスを導き出した。以上2つの視点は、それぞれ居住空間に奥行きを生み出す壁構成と、人の居場所を生み出すための床構成として抽象化されたモデルを生み出した後、融合されることにより居住空間の再構成が行われる。

Ⅱ章では、Ⅰ章において述べた＜遠近法＞と＜地形類型＞について、歴史的な事象を踏まえながら、より詳細な考察をおこなった。

1節と2節では、日本における絵画と庭園の歴史を振り返り、普遍的な線遠近法に対し、重畳遠近法の特徴が日本の絵画と庭園の両方に共通して見出せることを、具体例を挙げて示すことにより、Ⅰ章において抽出された2つの遠近法の根拠とした。

3 節では、I 章において抽出された 5 つの地形類型について、主に樋口忠彦の既往研究である日本の地形と集落の關係に着想を得ることにより、閉鎖性（庇護性）のある地形として盆地、谷、山辺を、開放性（眺望性）のある地形として山辺、里山、丘を詳細に考察し、I 章において導き出された地形類型とそのマトリックスの根拠を明かにしている。

4 節では、IV 章において示す試案における上位概念として、二つの空間構造を論じた。ひとつは＜ホドロジー空間＞であり、ひとつは＜奥的空間＞である。それらの考察により、絶対的な位置關係と軸を有する＜共時的空間構造＞と、相対的な位置關係と偶有性を有する＜通時的空間構造＞のダイアグラムを導き出すことを試みた。それらは現代社会を支える計画論的視点において、両極に位置する考え方である。

III 章では、新建築住宅特集創刊号から 2018 年までに収録された約 5500 作品の中から、I 章で導き出した尺度と比率のマトリックスを用いて 108 枚の写真を選び出し、集計表にまとめて考察をおこなった。そして、＜縮景＞を体系的に捉え、且つ継続的に住居作品へと反映してきた建築家は本論文筆者以外に存在しない、という結論を得た。次いで本論文筆者の 20 年に及ぶ設計活動を経て実現した＜縮景の手法＞による作品群から、20 作品の写真を抽出し、遠近法と地形類型ごとに体系的に縮景プロセスの解説をおこなった。

IV 章では、＜縮景の手法＞を用いた試案の設計プロセスを、6 つの段階に分けて図版化し、以下の通り順を追って示した。縮景の手法における円環のダイアグラム（a～f）の位置づけも併記した。

- 1, 縮景プロセス 1: イメージの実在化と抽象化の過程 ____a, b, c, d,
- 2, 縮景プロセス 2: 単位空間モデルの生成 _____e
- 3, 縮景プロセス 3: 単位空間モデルの連結 _____e
- 4, 縮景プロセス 4: 立体モデルの生成 _____e
- 5, 縮景プロセス 5: 立体モデルの合成 _____e
- 6, 縮景プロセス 6: 自然風景への帰還 _____f

尚、II 章 4 節において導き出した 2 つの上位概念は、縮景プロセス 4 において適用され、＜共時的空間モデル＞と＜通時的空間モデル＞という二つのピュアーモデルを生み出した。そして最後に、“トポスの風景”と称する試案の計画概要／平面／立面／断面をそれぞれ収録した。

V 章では結論を述べる。以下はその要約である。

本研究の目的とは、無個性な量産住宅が流布する現代日本の現状を踏まえ、風土的振る舞いを誘発する居住空間の設計手法を体系づけ、さらに現実の設計への転回を可能とするピュアーモデルを示すことであつた。そして＜縮景の手法＞により設計された IV 章の設計試案において、移動に伴って変化する空間の奥行きと、連続した追体験として自然風景のアナロジーを再現することに成功し、住居の設計における＜縮景の手法＞の有効性と現実性を示す研究目的が達成された。

以上。

早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

氏 名 岸本和彦 印

(2020 年 04 月 現在)

| 種 類 別 | 題名、 | 発表・発行掲載誌名、 | 発表・発行年月、 | 連名者（申請者含む） |
|-------|----------------------|----------------|----------|------------|
| ○作品 | ソラニタツイエ | 日本建築学会作品選集2017 | 2017年3月 | p42-43 |
| ○作品 | ソラニタツイエ | 新建築住宅特集 | 2012年11月 | p86-93 |
| ○作品 | Casaさかのうえ | 日本建築学会作品選集2017 | 2017年3月 | p28-29 |
| ○作品 | Casaさかのうえ | JIA 建築年鑑2014 | 2015年6月 | p114-115 |
| ○作品 | Casaさかのうえ | 新建築住宅特集 | 2014年3月 | p88-99 |
| ○作品 | Nesting in the Earth | JIA建築年鑑2017 | 2018年6月 | p78-79 |
| ○作品 | Nesting in the Earth | 新建築住宅特集 | 2014年12月 | p78-87 |
| ○作品 | Nesting in the Sky | JIA建築年鑑2015 | 2016年6月 | p86-87 |
| ○作品 | Nesting in the Sky | 新建築住宅特集 | 2015年9月 | p66-73 |
| ○作品 | House-H | JIA建築年鑑2014 | 2015年6月 | p116-117 |
| ○作品 | 桜通りの曲がり屋 | JIA建築年鑑2012 | 2013年6月 | p68-69 |
| ○作品 | 桜通りの曲がり屋 | 新建築住宅特集 | 2013年7月 | p62-71 |
| ○作品 | RSH：6 | JIA建築年鑑2010 | 2011年6月 | p72-73 |
| ○作品 | RSH：6 | 新建築住宅特集 | 2010年8月 | p122-129 |
| ○作品 | 北鎌倉の家 | JIA建築年鑑2009 | 2010年6月 | p60-61 |
| ○作品 | 北鎌倉の家 | 新建築住宅特集 | 2009年11月 | p42-50 |
| ○作品 | RSH：3 | JIA建築年鑑2007 | 2008年6月 | p52-53 |
| ○作品 | RSH：3 | 住宅建築 | 2007年11月 | p86-93 |
| ○作品 | RSH：4 | JIA建築年鑑2007 | 2008年6月 | p54-55 |
| ○作品 | 湯河原の家 | JIA建築年鑑2007 | 2008年6月 | p56-57 |
| ○作品 | 湯河原の家 | 新建築住宅特集 | 2007年8月 | p118-124 |
| ○作品 | 湯河原の家 | 住宅建築 | 2007年11月 | p94-101 |

早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

| 種 類 別 | 題名、 | 発表・発行掲載誌名、 | 発表・発行年月、 | 連名者（申請者含む） |
|-------|---------------|-------------|-------------|---------------|
| ○作品 | RSH：2 | JIA建築年鑑2006 | 2007年6月 | p62-63 |
| ○作品 | RSH：2 | 新建築住宅特集 | 2006年8月 | p118-123 |
| ○作品 | Chanomahouse | JIA建築年鑑2006 | 2007年6月 | p60-61 |
| ○作品 | Chanomahouse | 住宅建築 | 2006年3月 | p94-103 |
| ○作品 | 鈴木荘 | JIA建築年鑑2006 | 2007年6月 | p64-65 |
| ○作品 | Soranokatachi | JIA建築年鑑2005 | 2006年6月 | p58-59 |
| ○作品 | Soranokatachi | 住宅建築 | 2003年4月 | p98-107 |
| 作品 | 森と空へ | 日本建築学会九州支部 | 九州建築選 2019 | 2020年3月(掲載決定) |
| 作品 | 森と空へ | 新建築住宅特集 | 2019年8月 | p134-141 |
| 作品 | 余白の杜 | 日本建築学会東北支部 | 東北建築作品集2018 | 2018年10月 P9 |
| 作品 | 余白の杜 | 新建築住宅特集 | 2018年3月 | p82-89 |
| 作品 | 縮景の杜 | 新建築住宅特集 | 2019年12月 | p110-1107 |
| 作品 | Earth&Horizon | 新建築住宅特集 | 2018年9月 | p78-85 |
| 作品 | 地形の残像 | 新建築住宅特集 | 2018年7月 | p138-143 |
| 作品 | 白の矩形 | 新建築住宅特集 | 2017年12月 | p158-165 |
| 作品 | 砂丘残景 | 新建築住宅特集 | 2016年12月 | p140-145 |
| 作品 | 上野毛の曲がり屋 | 新建築住宅特集 | 2016年12月 | p146-153 |
| 作品 | Roof&Shelter | 新建築住宅特集 | 2015年6月 | p118-125 |
| 作品 | 余白の杜～茅ヶ崎～ | 新建築住宅特集 | 2014年11月 | p126-133 |
| 作品 | 辻堂の曲がり屋 | 新建築住宅特集 | 2013年10月 | p68-77 |
| 作品 | SORANOEN | 新建築住宅特集 | 2011年4月 | p130-137 |
| 作品 | 葉山の家 | 新建築住宅特集 | 2009年5月 | p106-113 |

早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

| 種 類 別 | 題名、 | 発表・発行掲載誌名、 | 発表・発行年月、 | 連名者（申請者含む） |
|-------|------------------------------------------------------------|------------|-------------|----------------------------|
| 作品 | 富士見町の家 | 住宅建築 | 2009 年 11 月 | p85-91 |
| 作品 | KAZENOYUKISAKI | 住宅建築 | 2006 年 3 月 | p104-109 |
| 作品 | RSH : 1 | 住宅建築 | 2006 年 3 月 | p110-115 |
| 作品 | 風景のかたち | 住宅建築 | 2004 年 2 月 | p8-21 |
| 作品 | 土の家・風の家 | 住宅建築 | 2003 年 4 月 | p88-97 |
| 総説 | 地形のメタファーによる動線のデザイン手法 | | | |
| 総説 | すまいと電気 日本工業出版 2018 年 3 月 | | | |
| | 行動を構成する～ゆらぎの中の求心性と軸～ | | | |
| 総説 | | 建築思潮研究所 | 住宅建築 | 2006 年 3 月 P34-P37 P92-117 |
| 総説 | LDK-New age | 建築思潮研究所 | 住宅建築 | 2004 年 2 月 p8-21 |
| 総説 | Eco-Japanism の提案 | 建築思潮研究所 | 住宅建築 | 2003 年 4 月 p85-111 |
| 著書 | 日本の住宅をデザインする方法 2（共著） エクスナレッジ 2012 年 12 月 | | | |
| | 岸本和彦 P10. 18-28. 田井幹夫、谷尻誠、手塚貴晴・手塚由比、納谷学・納谷新、西久保毅人、廣部剛司 | | | |
| 講演 | 『余白の杜』作品発表会 第 28 回東北建築作品発表会 日本建築学会東北支部 2017 年 10 月 | | | |
| 講演 | 『森と空へ』作品発表会 第 13 回九州建築作品発表会 日本建築学会九州支部 2019 年 9 月 | | | |
| 報道 | 『Earth&Horizon』Focus on Housing 日経アーキテクチャー 2018 年 6 月 28 日 | | | |
| 報道 | 『辻堂の曲がり屋』Focus on Housing 日経アーキテクチャー 2014 年 3 月 10 日 | | | |